

■今月の特選句

2014年3月号

割烹着で試験管振る春隣

奥脇弘久

STAP細胞の小保方晴子さん。取材攻勢で研究に支障が出ている。「データよりデータが大切春の恋」「ある人を初期化したくて酔をかける」。

過不足のすぐ顔に出るお年玉

田村米生

子どもは正直。「加算して笑顔に変えるお年玉」「消費税上乘せをしてお年玉」「長生きを願ふ理由はお年玉」「お年玉欲しいと後期高齢者」。

引鶴の頸光陰の矢となりて

永島董玉

引く鶴のかたちを描き見事な句。「引く鶴のスピード感も描きたる」「光陰の矢と言ふ誇張する技も」「鶴の頸光陰の矢とは強引な」。

春日背に浴びて窓際族冥利

都吐夢

「窓際のイメージ変えし一句かな」「窓際が良くて第一線を退き」「窓際のつもりがなんと窓外へ」「春日を浴びて作句の窓際族」がいいね。

練習のわりに大声して初音

有富洋二

「音量の調節できぬ初音かな」「初音にも適用騒音防止令」「美声でふ観念破る初音かな」「声で人魅せる修業の初音たち」。

初期化なり老ひたる猫の恋もまた

高橋素子

「俳人も初期化をせんと黒酢飲む」「初期化して滑稽になる五七五」「初期化とは初心に帰ることならむ」「初期化して童子になれば特選句」。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

冴返るわれを拒絶の改札機

・・・テレホンカード入れたんだろう

原田 暉

去年今年軸に舞台の回りけり

・・・季語の縦軸横にひろげて

金澤 健

アイシャドー溶ける炭の目雪たるま

・・・悲しきことのありての嗚咽

藤岡蒼樹

雛納めすれど甲斐なき行きおくれ

・・・婚活よりも雛納め好き

小林英昭

春めくやベンチに並ぶ膝頭

・・・貧乏ゆすりやめて下さい

菅野あたる

散るさまを目撃されず山茶花は

・・・散る悲しさを見られるは嫌

梅岡菊子

目刺とはいかなる罰ぞ連ねられ

・・・悪い人間来世目刺に

久松久子

チョコ博となりぬバレンタインデーは

・・・余ったチョコは来年まわし

高橋マキコ

ハイヒールこつこつ春連れやって来た

・・・借金取りと同じ靴音

三橋百笑

立春やこみあう駅に大荷物

・・・宅配便の経費を惜しみ

山本 賜

絵踏して妻に許しを乞ひにけり
・・・彼女の写真破って見せる

松尾軍治

金太郎飴どっこにもなく初詣
・・・桃太郎トマトで我慢だね

鈴木和枝

魚類には魚類の誇りごまめの歯
・・・歯ざしりしつとお重に威張る

高橋きのこ

■今月の滑稽句

【佳作】	節分会鬼より怖い古女房 吹き荒れて行方くらまし春一番 就活に七転八倒井の蛙	青木輝子 青木輝子 青木輝子
【佳作】	狭くとも庭でゴルフや冬うらら 寒の水飲まずに泳ぐ鴨の群 全身を殆ど出して反る大根	青山桂一 青山桂一 青山桂一
【佳作】	高速道路空中交叉初電話 初春や孤独癒すかコミュニティー ちぢれしわしわ葉牡丹の愛らしき	秋月裕子 秋月裕子 秋月裕子
【佳作】	我が子より猿褒めちぎり猿回し モーニング新調なのかも初鴉 時効とて明かせぬ嘘も寒昂	麻生やよひ 麻生やよひ 麻生やよひ
【佳作】	梅園の抹茶サービス列をなす 飛梅や四方は柵に囲まれぬ	有富洋二 有富洋二
【佳作】	冬ごもり電子レンジを友として 雪女こころはきっと温かい 着ぶくれてパリコレなどのたまひぬ	有吉堅二 有吉堅二 有吉堅二
【佳作】	三. 一神に小言を言う女房 寝ていてもたれ目のパンダ山笑う 境内の掃き清め待つ椿落ち	粟倉健二 粟倉健二 粟倉健二
【佳作】	婚約が決まり編みだす春セーター 己が鼻映してみたり蜆汁 孕み猫子女教育の教材に	飯塚ひろし 飯塚ひろし 飯塚ひろし
【佳作】	寒鯉の一拍二拍の息を継ぐ ワインより男本音のおでん酒 鴨の池花子に太郎三四郎	井口夏子 井口夏子 井口夏子
【佳作】	人生はバストとヒゲぞ新成人 平成元禄金髪ピアスの伊達男	池田亮二 池田亮二
【佳作】	整骨院あふれる雪かき後遺症 春愁やスイーツ一つでケリつける	石川セツコ 石川セツコ
	住職の婚活一途山笑ふ	伊地知寛

【佳作】	霾るや大砂嵐寄り倒す 富士の山三保の松原笑ひ合ふ	伊地知寛 伊地知寛
【佳作】	初詣あまたのあたま飛ぶ小銭 牡蠣入れて書き入れ時の小料理屋 十四時間のちに初日となる入日	伊藤浩睦 伊藤浩睦 伊藤浩睦
【佳作】	ばらの花触れてはならぬものに触れ 考へてゐるやうにみえて冬の蠅 着ぶくれて背すじ正してみたりけり	稲沢進一 稲沢進一 稲沢進一
【佳作】	大根や美脚と言ひて届けくれ 忘れたと気付くに五分冬帽子 雪積り夫の足跡右に行く	井野ひろみ 井野ひろみ 井野ひろみ
【佳作】	耳につく童女の御慶幾たびも 寂しげな俳句際立つ去年今年 園児らも見様見真似や初詣	入江澄泉 入江澄泉 入江澄泉
【佳作】	オリオンの冴ゆ残業の帰り道 鬼の豆鬼は鬼歯で噛み砕く 白鳥に焦がれダイエットするアヒル	上山美穂 上山美穂 上山美穂
【佳作】	恋の猫監視カメラを横切りぬ 蹤いて来る春の足音万歩計 たんぽぽは花のパラボラ天へ向く	氏家頼一 氏家頼一 氏家頼一
【佳作】	朝日に染まり寒明の深呼吸 抜けばすぐ生え二ヶ月の庭の草	梅岡菊子 梅岡菊子
【佳作】	へそくりをしまひ忘れし春の風邪 センサーの視覚の中の恋の猫 ここだけの話がもれて亀鳴けり	越前春生 越前春生 越前春生
	冬たんぽぽ頑固一徹しがみつく 春寒はまだ来ぬ人を待つ恨み	奥脇弘久 奥脇弘久
【佳作】	冬の蜘蛛湯殿の壁でいい湯だな 金槌の錆こぼれけり鏡割 負独楽の勢ひ余る土俵下	笠 政人 笠 政人 笠 政人
【佳作】	枯银杏智謀も枯れてしまひたる 寒木瓜を眺むる吾へゆび指すな 底冷の小便大き身ぶるいす	加藤 賢 加藤 賢 加藤 賢

	元旦や俳句で返事妻笑う	門屋 定
【佳作】	泣き顔や笑顔に変わるお年玉 年賀状鹿は居らずや馬と花	門屋 定 門屋 定
	おみくじに八つ当りする初詣 立食ひの足のそぞろや小春風	金澤 健 金澤 健
【佳作】	頻尿のますます近く寒に入る 手術後に寒九の水を一气飲み 寒晴や術後の世界一変す	川島智子 川島智子 川島智子
【佳作】	ハスキーのうえにセクシー春の風邪 花器割って恋猫闇へ跳びいづる	菅野あたる 菅野あたる
【佳作】	おばかさんの「か」の字を取れば温くぬくし ホームランの数だけもらうバレンタインデー 目と目近き横尾忠則春隣	久我正明 久我正明 久我正明
	春きざす脳の海馬が跳びはねて かまど猫大三角の空の下	工藤泰子 工藤泰子
【佳作】	冬木の芽花咲か爺を待つてゐる	工藤泰子
	凍て大根予報深読みまたはずれ 受験の子遊ぶ子・学ぶ子・休む子も	黒田忠一 黒田忠一
	立春や立てば歩めの茹卵 十八の大馬鹿浮かぶ柚子湯かな	小泉花子 小泉花子
【佳作】	凧がこぶしで雨戸たたきおる	小泉花子
	春こたつそろそろ別れ時かしら 水ぬるむ猫が日向をはしごする	小林英昭 小林英昭
【佳作】	偉大なるヒップの競演汐干狩 花の宴メールはまりて上の空 年の豆持て余したる八十路かな	酒井鹿洋 酒井鹿洋 酒井鹿洋
	豆まきよ鬼がじゃまして福不在 あっち向いてパク恵方巻数足りず	佐藤義子 佐藤義子
【佳作】	カルタ取り負ける振りして孫の勝ち	佐藤義子
	かけがえのなき人とゐて余寒なほ 水漬やブランド品を見て歩く	下嶋四万歩 下嶋四万歩
【佳作】	ゆっくりと冷めてゆく仲懐炉抱く	下嶋四万歩

【佳作】	年用意お手貸しますと子猫来ぬ 初喫煙人間燻製所に入り 年始客甘へてからの酒の量	壽命秀次 壽命秀次 壽命秀次
【佳作】	祓はれてその気になりし受験生 猫の手を借りたいほどや恋の猫 受験子を差し置き母の祓はるる	白井道義 白井道義 白井道義
【佳作】	デフレ脱却は小腹がすくな 無職のカラスよちよち近づいてくる	鈴木和枝 鈴木和枝
【佳作】	遅い朝冬帽子して受験場 春まちか本を注文読みやすく 前髪と耳回り切り手袋し	鈴木哲也 鈴木哲也 鈴木哲也
【佳作】	梅安も仕事休んで供養針 風見鶏風も吹きよで恵方かな 雪兎ピンの目してる盆の上	高田敏男 高田敏男 高田敏男
【佳作】	銭湯に浸かり初富士拝みたり 初御籤右も左も中国人	高橋きのこ 高橋きのこ
【佳作】	底冷えに足首かみつかれている ヤンキーの集会なのか成人式	高橋マキコ 高橋マキコ
【佳作】	また一人友の不参加冬落暉 沸騰の笛吹く薬缶息白し	高橋素子 高橋素子
【佳作】	寒椿初恋の女の匂ひ 寒の夜のやみうちされた事のあり かじかむての句のメモとるなりにけり	田中 勇 田中 勇 田中 勇
【佳作】	柏手は年に一回ジャンボくじ 車とは不便な物よ初詣 問題児髭を生やして帰省せり	田中早苗 田中早苗 田中早苗
【佳作】	暮早し尻の重たき油売り バーゲンに打つて出るべく寒卵	田村米生 田村米生
【佳作】	デパートで楽しんでくる雛祭り 節分の豆は袋に分けて投げ 公園はシルバーばかり日向ぼこ	津田このみ 津田このみ 津田このみ

	恋猫に我が声重ねしらんぷり 大寒のタワーやほろ酔い顔をして イケメンの浅間にかかる雪眩し	土屋泰山 土屋泰山 土屋泰山
【佳作】	春立つや間も無く年貢三分増し 禁句など与り知らぬ猫の恋	都吐夢 都吐夢
	陋屋を出るに出られず雪見酒 はにかみて荒行堂の梅ふふむ 追ひ越して鬼より貰ふ年の豆	飛田正勝 飛田正勝 飛田正勝
【佳作】	白妙のあと紅の椿落つ 亀のなく一万回の誕生日	永島董玉 永島董玉
	千代田区は国会議事堂冴え返る 国債のふくらんで来る余寒かな あのひとのあさきゆめみし春浅し	西をさむ 西をさむ 西をさむ
【佳作】	勾配に負けじと咲くや梅白し 新築の引っ越しの日早ツバメの巢 若鮎や連絡帳にも校歌にも	花岡直樹 花岡直樹 花岡直樹
【佳作】	マスクして路地に佇ちたる雪女 初荷着くアマゾンよりの出刃包丁	原田 曄 原田 曄
	日向ぼこ特等席は猫のもの かいぼりの池の底見に集まり来 守るとは見張ることかも櫻守	ひがし愛 ひがし愛 ひがし愛
【佳作】	コイン切れ仕掛獅子舞そっぽ向く 合いの手は手鉤に入れて眼張耀る	久松久子 久松久子
	少年の眼の人ならむ寒の入 冬深しうたた寝いつか深眠り くちびるに関わる言葉チュールップ	日根野聖子 日根野聖子 日根野聖子
【佳作】	下肥を濾過し吸ひをる春の畑 音の翔つ捨て缶蹴るや草萌ゆる	藤岡蒼樹 藤岡蒼樹
	著ぶくれて自閉自分の世界あり おでん種最大公約数を買ふ 初春の老いたゴリラの思案顔	藤森荘吉 藤森荘吉 藤森荘吉
【佳作】	南天の葉と実で生まれ雪兎	藤原セツ子

【佳作】	蠟梅の香はいつこより路地に入る 何とのお芽吹き気配らしき色	藤原セツ子 藤原セツ子
【佳作】	湯たんぽの好きな猫なりよく眠る すき焼や女二人の夜を語る 人を恋ひ人肌を恋ひ寒夜かな	松井寿子 松井寿子 松井寿子
【佳作】	寒明けや恋人肥えて顛れる ブルドッグに薄氷踏ませるべく叱咤 威しありおべっかもあり猫の恋	松井まさし 松井まさし 松井まさし
【佳作】	プライドの高き雌だと猫の恋 花札の五光くずれや冬ごもり	松尾軍治 松尾軍治
【佳作】	冬ざれや殿乱心の北の国 初みくじ小吉でよし老い二人 泡沫も原発論ず冬選挙	丸山絃一 丸山絃一 丸山絃一
【佳作】	潔く全裸になる木ならぬ樹よ 四頭身何でもしたがるすぐ転ぶ	三橋百笑 三橋百笑
【佳作】	木枯しや耳そぎ落すばかりなり 欠伸して心の憂さを晴らしけり 箸置きになりし天草の鯉五郎	宮森 輝 宮森 輝 宮森 輝
【佳作】	鬼遣ひ天使と悪魔飼ひ馴らす 縄跳びの大波にふとのまれけり 白菜漬一声かけて割きにけり	百千草 百千草 百千草
【佳作】	かじかんだ指に与える湯の刺激 玄関にそつと豆置く節分夜 綿雪の私を浮かす軽さかな	森岡香代子 森岡香代子 森岡香代子
【佳作】	初場所は問語留勝負の国技かな 福は内うちを持ってずに鬼となる 餅焼けば旧正月が膨らんで	森 要 森 要 森 要
【佳作】	たらの芽の天麩羅を褒めお別れ会 春光を惜しまず溢れさせる空 古紙束ね持ち重りする春隣	八木 健 八木 健 八木 健
【佳作】	マスクしてマスクの女医の聴診器 着ぶくれて三度の食事ごちそうさん 痛風の痛い何の寒風や	八洲忙閑 八洲忙閑 八洲忙閑

- | | | |
|------|--|-------------------------|
| 【佳作】 | お見合ひの下方修正初鏡
はや死者を生き返らせて雪合戦
大きくしゃみまた風評の忍び寄る | 柳 紅生
柳 紅生
柳 紅生 |
| 【佳作】 | 冬バラの好きなグランパ孫キッス
逃げし猫雪中ニヤーンと又戻る
姿なく何処の声や「寒いっすね」 | 柳澤京子
柳澤京子
柳澤京子 |
| 【佳作】 | 遠くありて思ふひとあり冬牡丹
食欲に応じて急ぎ鍋支度
大仏の胎内拌み冬ごもり | 山下正純
山下正純
山下正純 |
| 【佳作】 | 一年を償ふ夫のせち料理
ガラスふく束の間の雪楽しみつ
黴餅や鏡開きを急がねば | 山本けい子
山本けい子
山本けい子 |
| 【佳作】 | 大切なひとりの時間寒椿
惜しげもなく切りくれし黄水仙 | 山本 賜
山本 賜 |
| 【佳作】 | バレンタイン皮算用の昂ぶりぬ
足先にときめき込めて炬燵かな
減るも嬉し増えるも嬉し年賀状 | 横山喜三郎
横山喜三郎
横山喜三郎 |
| 【佳作】 | 裸木の瘤もあらはに空蒼む
検尿のちんぽこ縮む寒波来
目の前に三途の川や冬うらら | 渡辺さだを
渡辺さだを
渡辺さだを |